

17 マイヨ 名著と古代の遺跡による『古代民族の服飾、風俗及び宗教、市民と軍事の慣習の研究』 若き画家、彫刻家、建築家とその他の芸術家と素人愛好家のための評論・教訓集 全3巻

Malliot, Joseph. Recherches sur les costumes, les mœurs les usages religieux, civils et militaires des anciens peuples, d'après les auteurs célèbres, et les monuments antiques. 3 vols. Paris, P. Martin, 1804. 288 plates 26.1 × 21.0 cm <383. 1-M-1~3>
Hiler p. 564 Colas 1955-1956 Lipp. 111, 111a

古代民族を中心とし、その服飾及び生活全体の慣習を著した3巻からなる著作である。第1巻では副題として挙げられた内容の60頁に及ぶ序文と古代ローマを、第2巻ではアフリカ大陸、オリエント、中国などの諸民族（エチオピア、エジプト、アラブ、メディア、ペルシャ、パルティア、スキタイ、シリア、ヘブライなど）を扱い、第3巻は紀元直後からメロヴィング王朝、カロリング王朝を経て、17世紀のルイ13世代までのフランスに当てている。

著者マイヨの主旨は修業中の芸術家たちに対する教訓、助言の形をとった第1巻の序文においてほぼ明らかである。そこではまず素描、アナトミー、表現性、均斉、明暗、色彩、透視法、群像における中心とその他の扱い、姿勢、ムーブメント、構図、独創性、服装などの芸術上の多面的な諸注意を与えている。最後の服装に関する節では、「服装の研究は単に衣服そのものや武装、記念碑などだけではなく、宗教的、市民的、軍事的な慣習の調査も必要である」とし、またギリシャ、ローマの芸術を高く評価しながらも、その芸術作品中の人物の多くは、異国民であっても裸体か、裸体に近い姿、あるいは観念的な、画一的な服装で表現されており、それらが必ずしも実情に忠実ではないことを指摘している。本文中、同時代の各民族自身の遺こした、例えば墓のような造形の調査を取り上げた理由もここにある。そして、ルネサンス期の芸術家たちの古代諸民族の服装に関する無頓着さに対しても批判を加えている。18世紀末からの古代への強い関心と、着実な実証性を求める近代的科学精神を反映したこの種の文献の中でも、古典的著作といえる。

第1巻98枚、第2巻78枚、第3巻111枚の線刻銅版の図版はすべて著者自身による。（能沢）